

## 〈 セミナーのご案内 〉

● 今回配布先を限定しておりますので、関係各位へのご覧につき、ご高配をお願いいたします。

回 覧 

--	--	--	--	--

高等教育活性化シリーズ 205 (通算 520 回)

2012 年 3 月 21 日 (水)

設置基準改正 / “15+1” 週問題の解消——

# 単位制度の実質化と教育・履修システムの進化

高等教育活性化シリーズ 211 (通算 527 回)

2012 年 5 月 15 日 (火)

新パラダイムへの対応シナリオ——

# 大学院学位プログラムの再構築と展開 II

設置基準改正 / “15+1” 週問題の解消——

# 単位制度の実質化と教育・履修システムの進化

～学年暦と時間割 / 授業・学習時間 / シラバス / 成績評価・証明～

- ※ 今次の設置基準改正の趣旨 / 「15 回授業」「定期試験を行う」規定はない / 単位制度実質化
- ※ [ICU] 3 学期制・各 11 週 / 授業科目 (3 単位 / 2 単位) / 1 コマ (70 分・105 分)
- ※ [筑波大] 3 学期制から 6 区分 2 学期制への進化 / 1 単位の明確化 / 週複数回授業 / 履修改善
- ※ [広島女学院大] 2 学期のまま各学期二分割 / 1 単位 45 時間を達成する仕組み / チェックと評価

### ● 講師陣 ●

- 荻上 紘一 氏 / (独) 大学評価・学位授与機構 特任教授  
中央教育審議会 大学分科会 大学教育部会専門委員
- 日比谷潤子 氏 / 国際基督教大学 副学長
- 清水 一彦 氏 / (国) 筑波大学 副学長・理事
- 木本 浩一 氏 / 広島女学院大学 学長補佐 (カリキュラム担当)  
国際教養学部 教授

2012 年 3 月 21 日 (水) 剛堂会館 (明治薬科大学) 会議室 (東京・麹町)

新パラダイムへの対応シナリオ——

# 大学院学位プログラムの再構築と展開 II

～設置基準等改正 / 博士論文研究基礎力審査の導入とその役割～

- ※ 質保証・向上～第二次施策要綱の要点と展開 / 前期・後期一貫学位プログラム構築 / 設置基準等の改訂
- ※ [日米比較] 博論研究基礎力審査: Qualifying Exam. / 博士課程教育のコースデザインと Ph.D. candidate
- ※ 養成人財像の明確化～研究者・高度専門職業人・大学教員・知的素養人 / 大学院教育の実質化
- ※ 大学院とは何か / 期待と停滞～その危機 / 重点化の功罪～政策とその限界 / 活性化のカギ・展望

### ● 講師陣 ●

- 樋口 聰 氏 / 文部科学省 高等教育局 大学振興課 大学改革推進室 室長
- 渡邊 聡 氏 / (国) 広島大学 高等教育研究開発センター 教授
- 川嶋太津夫 氏 / (国) 神戸大学 大学教育推進機構 教授  
中央教育審議会 大学分科会 大学院部会 臨時委員
- 金子 元久 氏 / (国) 筑波大学 大学研究センター 教授

2012 年 5 月 15 日 (火) 剛堂会館 (明治薬科大学) 会議室 (東京・麹町)



[ 参加要領 ]

日時 : 高等教育活性化シリーズ 205 単位制度の実質化と教育・履修システムの進化  
 2012年3月21日(水) 10:00~16:50  
 高等教育活性化シリーズ 211 大学院学位プログラムの再構築と展開Ⅱ  
 2012年5月15日(火) 9:40~16:50  
 会場 : 剛堂会館(明治薬科大学) 会議室(東京・麹町) ※両日程、同会場です  
 千代田区紀尾井町3-27 TEL 03-3234-7362  
 (東京メトロ有楽町線「麹町駅」1番出口より徒歩4分、またはJR中央・総武線「四ツ谷駅」麹町口より徒歩10分)

参加費	ご一名 (資料代を含む)	メディア参加 (資料及び音声CD送付)
高等教育活性化シリーズ 205 単位制度の実質化と教育・履修システムの進化	41,000円 (消費税込)	42,000円(送料、消費税込)
高等教育活性化シリーズ 211 大学院学位プログラムの再構築と展開Ⅱ	42,000円 (消費税込)	43,000円(送料、消費税込)

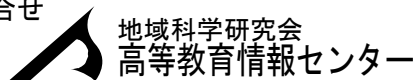
※参加費の払い戻しは致しません。申込者のご都合が悪いときには、代理の方がご出席ください。

申込方法 : 参加申込書に所要事項を記入のうえ FAX または Email にてご送付ください。  
 受講証と会場地図を送付しますので必ずご確認ください。

支払方法 : 銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。  
 みずほ銀行麹町支店 普通 1159880 三菱東京UFJ銀行神田支店 普通 5829767  
 三井住友銀行麹町支店 普通 7411658 \*郵便振替: 00110-8-81660  
 口座名 (株)地域科学研究会  
 (ご請求なき場合は振込受領書を領収書に代えさせていただきます)

インターネットでのご案内は⇒<http://www.chiikikagaku-k.co.jp/kkj/>

お申込み・お問合せ



地域科学研究会  
 高等教育情報センター

東京都千代田区一番町6-4 ライオンズ第2-106  
 TEL 03(3234)1231 FAX 03(3234)4993  
 E-mail: [kkj@chiikikagaku-k.co.jp](mailto:kkj@chiikikagaku-k.co.jp)

キリトリ線(※参加申込みの折は必ずお送りください)

研修会参加申込書

2012年 月 日

- 高等教育活性化シリーズ 205 単位制度の実質化と教育・履修システムの進化  
 当日参加  メディア参加  
 ■ 高等教育活性化シリーズ 211 大学院学位プログラムの再構築と展開Ⅱ  
 当日参加  メディア参加 (□に✓印を入れてください)

勤務先 \_\_\_\_\_

所在地 〒 \_\_\_\_\_

連絡部課・担当者名 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

メールアドレス \_\_\_\_\_

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

(通信欄) 支払方法(□郵便振替 □当日払い □銀行振込) 必要書類(□請求書 □見積書)

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
10:00 ) 11:30	<p>□ 単位制度の実質化                      ～大学設置基準改正の趣旨を踏まえて～                      大学評価・学位授与機構 荻上 紘一</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学士の学位を取得するには、「4年以上在学」「124単位以上修得」……。</li> <li>2. 大学設置基準では「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成する」と定めている。                      ・45時間=2,700分であるが、多くの大学では45時間=2,025分として運用している。                      ・1単位45時間の学修が確保されているか？</li> <li>3. 大学設置基準では「1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。」と定めている。</li> <li>4. 大学設置基準では「各授業科目の授業は、10週又は15週にわたる期間を単位として行うものとする。」と定めている。この期間に定期試験等を行う期間を含めてはならない。                      ・16週授業を行えば設置基準違反である！</li> <li>5. 「15回授業を行う」とは規定されていない。</li> <li>6. 「定期試験を行う」という規定もない。</li> <li>7. 単位制度の実質化に関して重要なことは                      ・十分な学習時間の確保      ・厳格な成績評価による単位認定                      (質疑応答)</li> </ol>
11:40 ) 13:00	<p>□ [国際基督教大] ICUの教育・履修システム                      ～リベラルアーツの深化をめざして～                      国際基督教大学 日比谷潤子</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アーツ・サイエンス学科の学び                      (1) 学年暦      (2) 4月/9月入学      (3) 3学期制度(1学期11週)                      (4) 履修登録      (5) 学期ごとの標準受講単位数</li> <li>2. 教育・履修システム                      (1) 授業科目(3単位/2単位)・1コマ(70分・105分)      (2) 科目番号                      (3) 時間割(横型/縦型コース)      (4) 教授言語      (5) 成績評価法</li> <li>3. シラバス                      (1) 学習目標      (2) 授業内容      (3) 評価基準      (4) 参考文献</li> <li>4. ICUにとっての3学期制の意味                      (質疑応答)</li> </ol>
14:00 ) 15:20	<p>□ [筑波大] 授業運営体制の革新と教育の質保証                      ～3学期制から6区分の2学期制への進化～                      筑波大学 清水 一彦</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 検討の背景と改革の基本的認識                      (1) 学生からの強い要望      (2) 改革の40年サイクルに対応</li> <li>2. 現行3学期制の問題点と見直しの方向性                      (1) メリットも多いが深刻なデメリットも      (2) 学生本位の観点からの見直し</li> <li>3. 先導的な授業運営体制の基本方針                      (1) 3学期制の運用メリットを生かした6区分2学期制                      (2) 「筑波DNA」の継承と1単位定義の明確化                      (3) 週複数回授業の奨励      (4) サマープログラムの活用</li> <li>4. 教育の実質化・質保証に向けた方策                      (1) カリキュラム改革と連結      (2) 履修システムの改善                      (3) 成績評価の厳格化への対応      (4) 秋季入学構想との連動                      (質疑応答)</li> </ol>
15:30 ) 16:50	<p>□ [広島女学院大] 「単位」の実質化と大学の再出発                      ～小規模大学におけるカリキュラム改定・改組の深度～                      広島女学院大学 木本 浩一</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「大学である」ことを目指して                      (1) 二段のカリキュラム改定      (2) 既存の学科を残したまま、全学改組を行う                      (3) 科目力・カリキュラム力</li> <li>2. 「学修活動」時間を達成する仕組み                      (1) 2学期(春・秋)制のまま各学期を「二分割(前・後)」                      (2) 春後・秋前での「フィールドワーク」～国際教養としての特徴                      (3) 単位(45時間)の学習を促す具体的なシラバス                      (4) 学習ポートフォリオによるチェックと評価</li> <li>3. 教育コミュニティとしての大学の力                      (1) 教育力の基礎としての研究力      (2) 改めて「単位」とは                      (質疑応答)</li> </ol>

時間	講義項目
9:40 ~ 11:30	<p>□ 大学院教育の質保証・向上と今後の重点施策                      ~「第二次大学院教育振興施策要綱」とその展開~</p> <p style="text-align: right;">文部科学省 樋口 聡</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学院教育の実質化の検証と課題</li> <li>2. 第二次施策要綱の要点                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 策定の趣旨及び基本的視点</li> <li>(2) 人材養成機能と各学位課程の目的・役割</li> <li>(3) 具体的な取組施策~5大テーマ・18項目~</li> <li>(4) 改革状況の調査・公表と評価</li> </ol> </li> <li>3. 博士課程教育の質向上と拠点形成                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 前期・後期一貫した学位プログラムの構築</li> <li>(2) リーディング大学院の形成と支援</li> </ol> </li> <li>4. 大学院の質向上に向けた設置基準等の改正                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 博士論文研究基礎力審査の導入とその役割</li> <li>(2) 専門職大学院の専任教員・認証評価の取扱い</li> </ol> </li> </ol> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
11:40 ~ 13:00	<p>□ [日米比較] 研究者および専門職人材養成の学位の質保証                      ~ Qualifying Exam. / 博士論文研究基礎力審査をめぐる~</p> <p style="text-align: right;">広島大学 渡邊 聡</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学院教育課程の日米比較                      ~修士・区分制博士 VS 修士・博士一貫型/修了要件~                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) わが国大学院教育のプロセスと特色</li> <li>(2) 米国大学院教育のプロセスと特色</li> <li>(3) メリット・デメリット比較</li> </ol> </li> <li>2. 物理学博士課程教育のコースデザインと Ph.D.candidate                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) わが国の物理学博士課程教育(東京大学、名古屋大学、広島大学を参考に)</li> <li>(2) 米国の物理学博士課程教育(MIT, Caltech, UCバークレーを参考に)</li> <li>(3) 米国大学院教育の悩み</li> <li>(4) わが国大学院教育課程の強みを生かす</li> </ol> </li> <li>3. 公共政策大学院修了者のキャリア問題                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 米国の公共政策大学院と労働市場</li> <li>(2) わが国公共政策大学院のミッション・機能</li> <li>(3) 今後の展望</li> </ol> </li> </ol> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
14:00 ~ 15:20	<p>□ 大学院教育課程の構築に向けて</p> <p style="text-align: right;">神戸大学 川嶋太津夫</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学院とは                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 大学院の誕生</li> <li>(2) 研究と「教育」の結合の場</li> <li>(3) 「形」から入った日本</li> </ol> </li> <li>2. 制度としての大学院                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 大学院に係る法律</li> <li>(2) 「区分制」の特異さ</li> <li>(3) 大学院大学の特異さ</li> <li>(4) 「専門職」大学院の特異さ</li> </ol> </li> <li>3. 数字から見た日本の大学院                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 大学院数の推移</li> <li>(2) 学生数の推移</li> </ol> </li> <li>4. 大学院教育の「実質化」とは                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 構造化された「プログラム」</li> <li>(2) 体系的な「カリキュラム」</li> <li>(3) 組織的な「ティーチング」</li> <li>(4) 厳格な「アセスメント」</li> </ol> </li> <li>5. 大学院の教育改革を                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 卒後教育</li> <li>(2) 専門力と汎用力</li> <li>(3) 規模と質</li> <li>(4) 質保証の枠組</li> <li>(5) 学士課程教育への効果</li> </ol> </li> </ol> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
15:30 ~ 16:50	<p>□ 大学院の展望                      ~政策の限界と大学の課題~</p> <p style="text-align: right;">筑波大学 金子 元久</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学院の危機                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 大学院とは何か</li> <li>(2) 「生涯教育の時代」への期待と大学院進学率の停滞</li> <li>(3) 大学院の危機</li> </ol> </li> <li>2. 大学院政策                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「大学院重点化」の功罪</li> <li>(2) 中教審における議論</li> <li>(3) 政策とその限界</li> </ol> </li> <li>3. 展望                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 大学院における研究と教育</li> <li>(2) 活性化のカギ</li> <li>(3) 経営問題としての大学院</li> </ol> </li> </ol> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>